

5大がんの初回治療内容について

5大がんの初回治療内容（2011～2024年診断症例）

※5大がん：わが国で罹患数の多い主要ながん「胃がん・大腸がん・肝がん・肺がん・乳がん」を指します

— がん治療内容の説明 —

※国立がん研究センター がん対策研究所 がん登録センター 「院内がん登録標準登録様式2016年版」より抜粋

初回治療の定義

自施設・他施設を問わず「がん」と診断されてから、腫瘍の縮小・切除を企図した一連の治療であり、がんに対する手術、化学療法や放射線治療などです。その他に経過観察を含みます。

再発や病状悪化などの後に行った手術や化学療法などは、初回治療に含みません。

治療なしの定義

自施設・他施設を問わず「がん」と診断されてから、初回治療を自施設で実施しない場合、治療方針を決定していたが治療前に来院しなくなった場合、自施設に治療目的で紹介されたが自施設で治療を行わず、他施設へ紹介した場合などです。

○ 2015年診断症例までの「治療なし」の定義

「診断のみ」・「治療前の来院中止」・「経過観察のみ」・「他施設での初回治療終了後に紹介された場合」

○ 2016年診断症例からの「治療なし」の定義

「診断のみ」・「治療前の来院中止」・「他施設での初回治療終了後に紹介された場合」
「経過観察のみ」は、「治療なし」の定義から除外しています。

その他の治療の定義

腫瘍の縮小・消失を目的に行われた初回治療のうち「手術」・「内視鏡的治療」・「放射線療法」・
「化学療法」・「内分泌療法」のいずれにも該当しない治療を指します。

症状緩和的治療の定義

初回治療のタイミングで「原発巣および転移巣、あるいは腫瘍随伴症候群などを含む、当該腫瘍による症状を緩和する目的で実施された治療や処置」です。従って、精神的サポートなどの無形に近い症状緩和的なアプローチは含みません。

症状緩和的治療の例〔輸血、消化管バイパス手術、ステント留置、胸水・腹水ドレナージ、緩和ケア算定加算がある、疼痛コントロール目的の医療用麻薬の使用〕

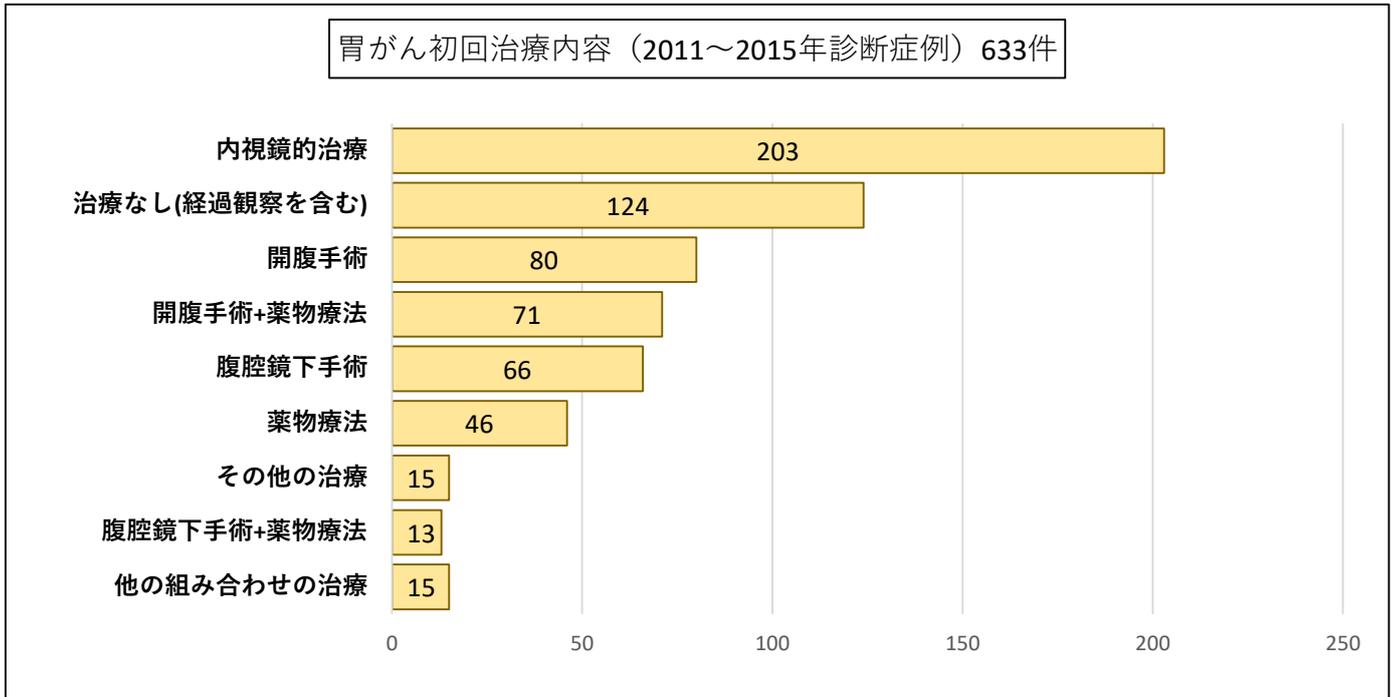
2016年診断症例から、がん治療内容の項目が変更されたため、
2011～2015年診断症例、2016～2024年診断症例を分けて表示しました。

— 院内がん登録（2011～2024年診断症例）5大がんの初回治療内容から見た、当院の傾向 —

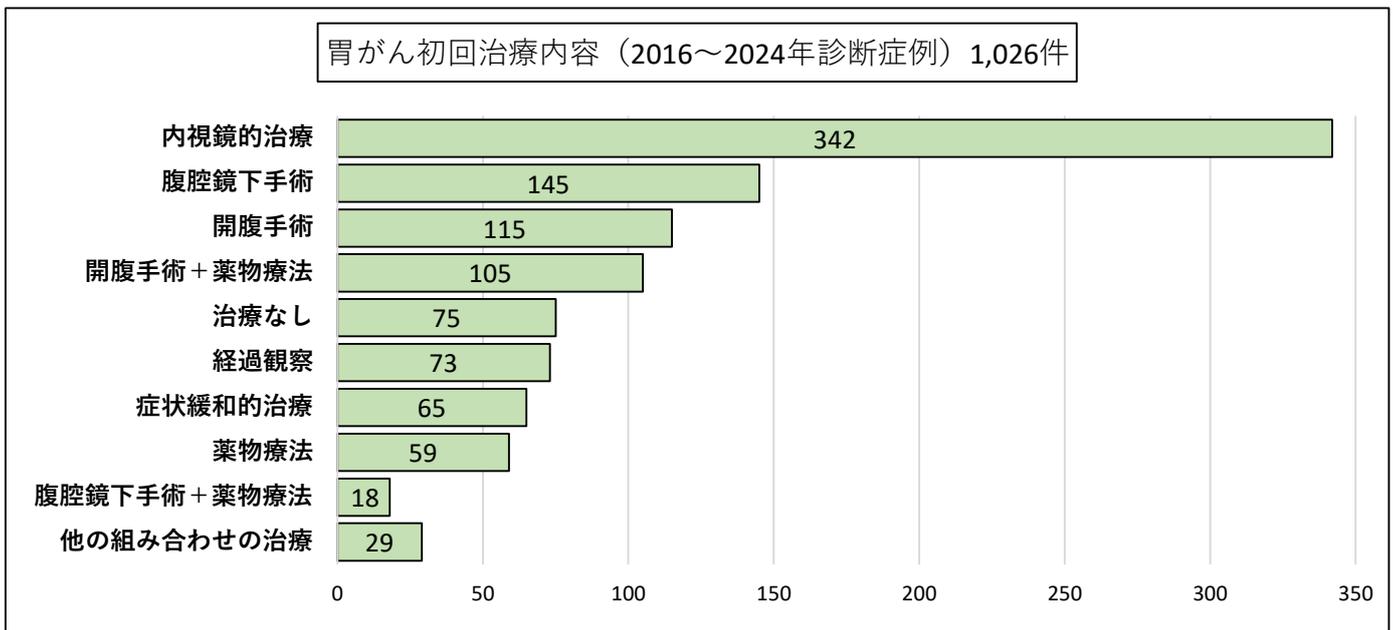
胃がん・大腸がんは「手術」や「内視鏡」、「手術+薬物療法」による治療が多く実施されていました。肝がんは「手術」や「TACE（肝動脈化学塞栓療法）」、肺がんにおいては「薬物療法」や「経過観察」が多く、乳がんでは「手術+薬物療法」、「手術+放射線療法+薬物療法」が多く実施されていました。全体的に「治療なし」も多く見られますが、治療内容の説明で示した「治療なしの定義」、「経過観察」の解釈によるものです。

※治療方法の分類【院内がん登録全国集計 報告書】準拠

2026年1月現在



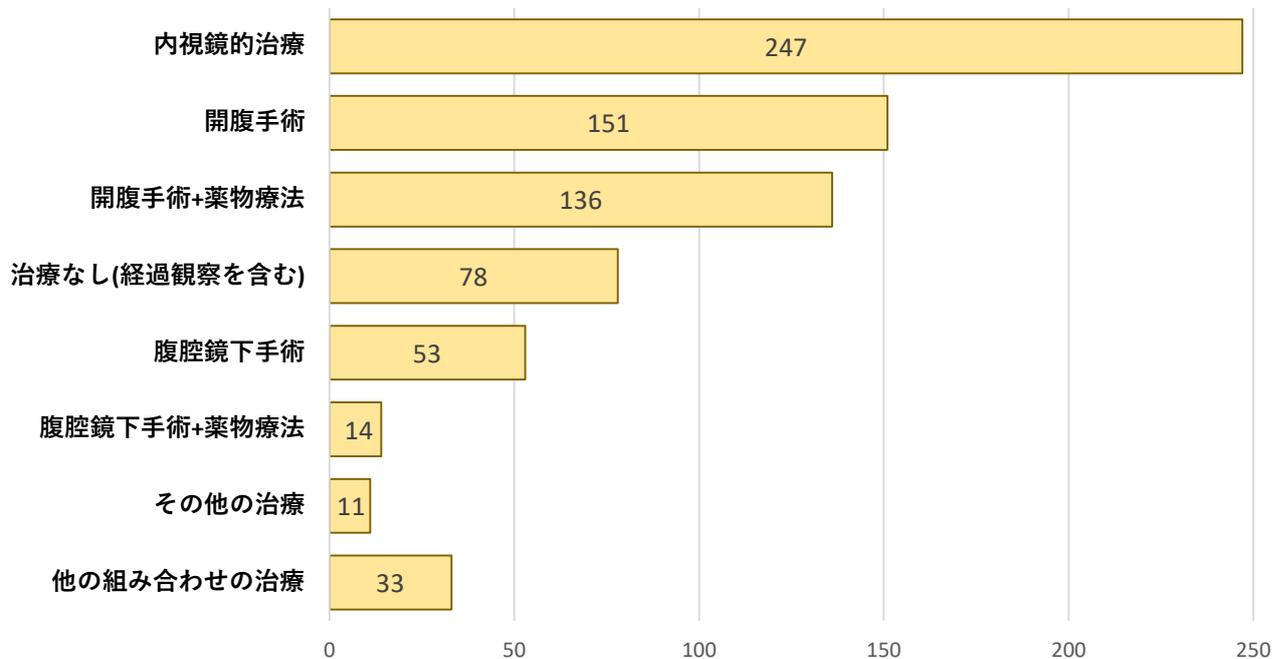
※ 薬物療法：化学療法、内分泌療法のいずれかを含む



※ 腹腔鏡下手術（ロボット手術含む）

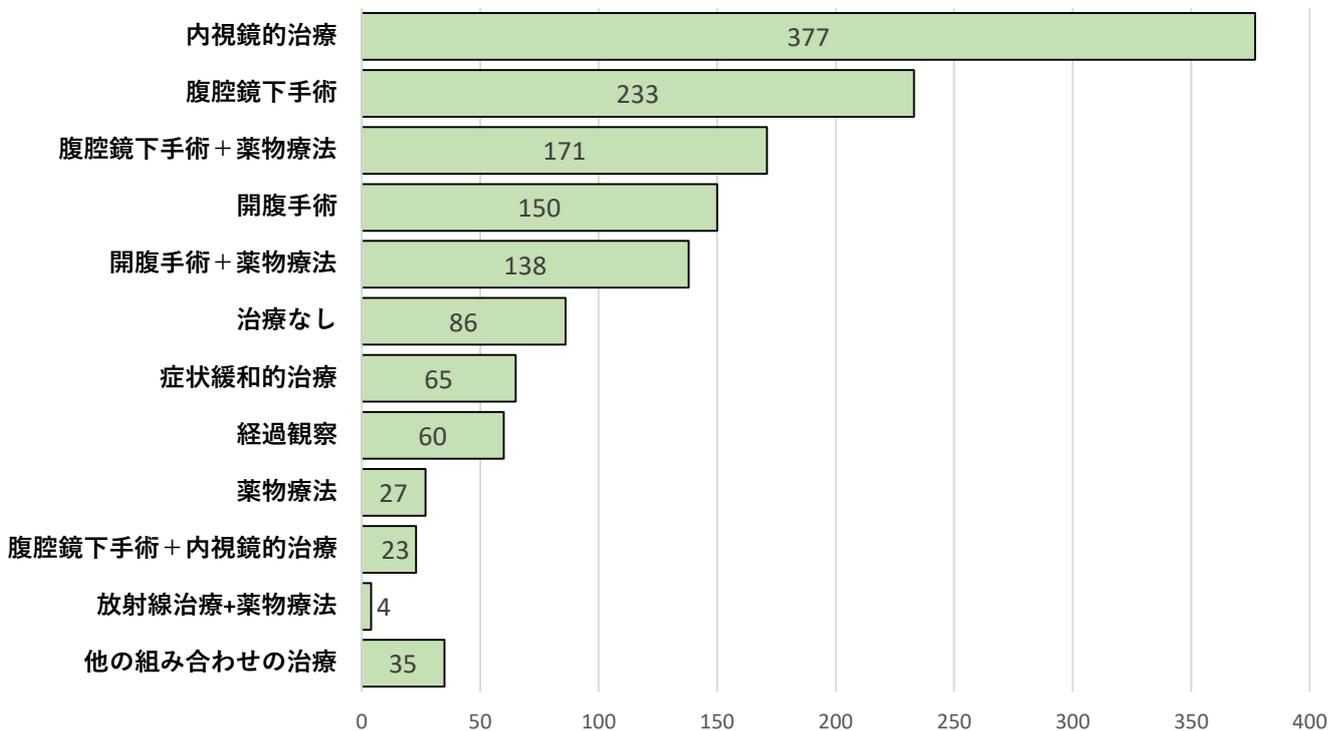
薬物療法：化学療法、内分泌療法のいずれかを含む

大腸がん初回治療内容（2011～2015年診断症例）723件



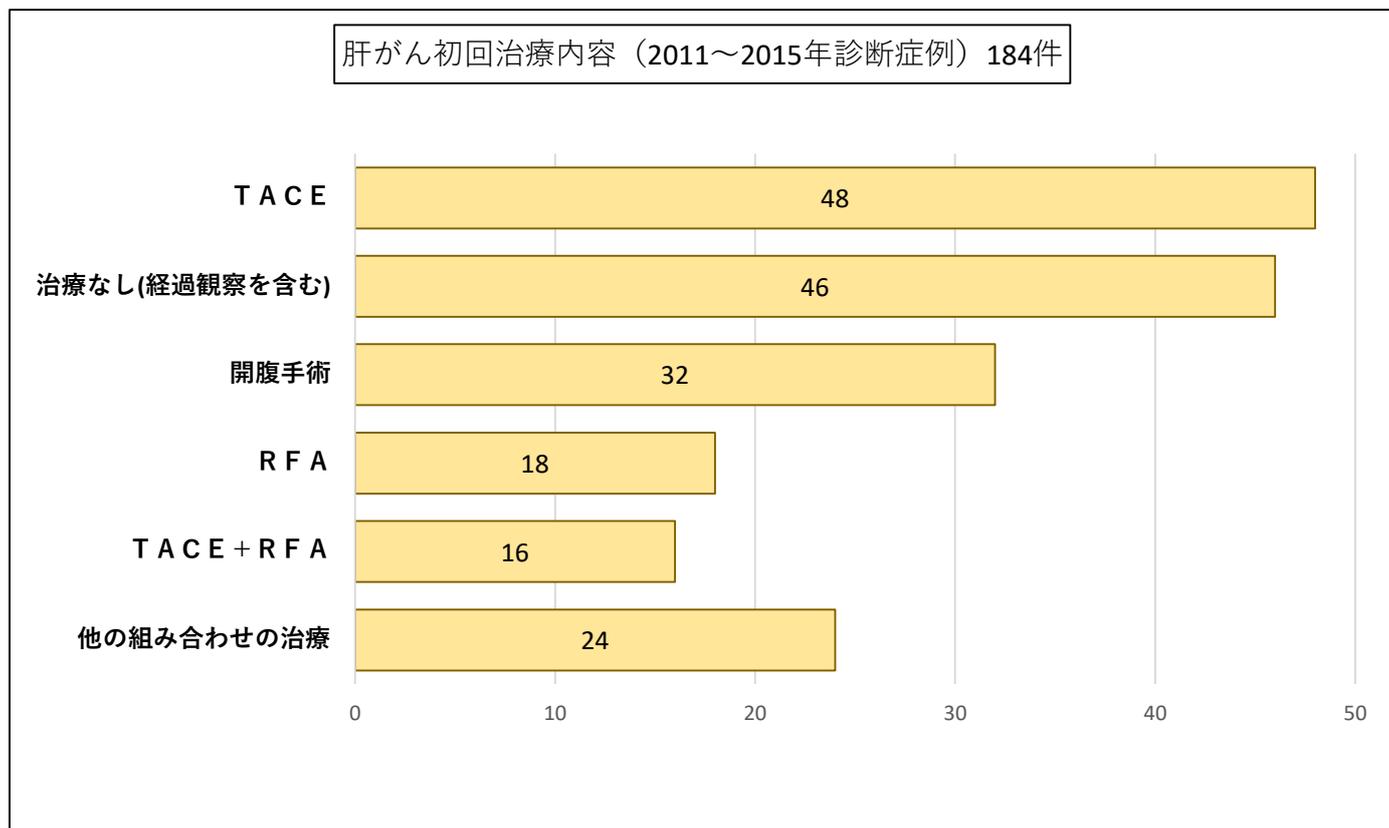
※ 薬物療法：化学療法、内分泌療法のいずれかを含む

大腸がん初回治療内容（2016～2024年診断症例）1,369件

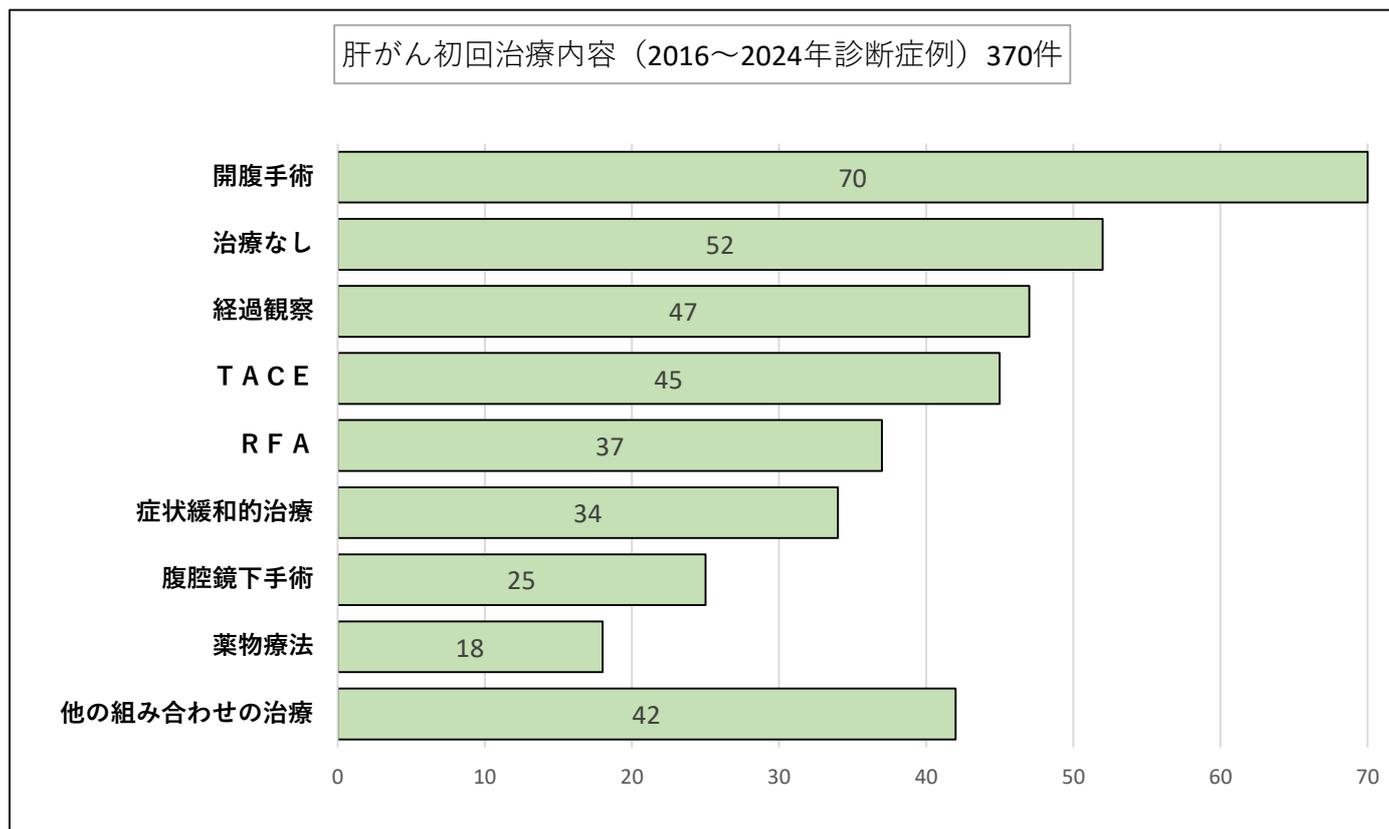


※ 腹腔鏡下手術（ロボット手術含む）

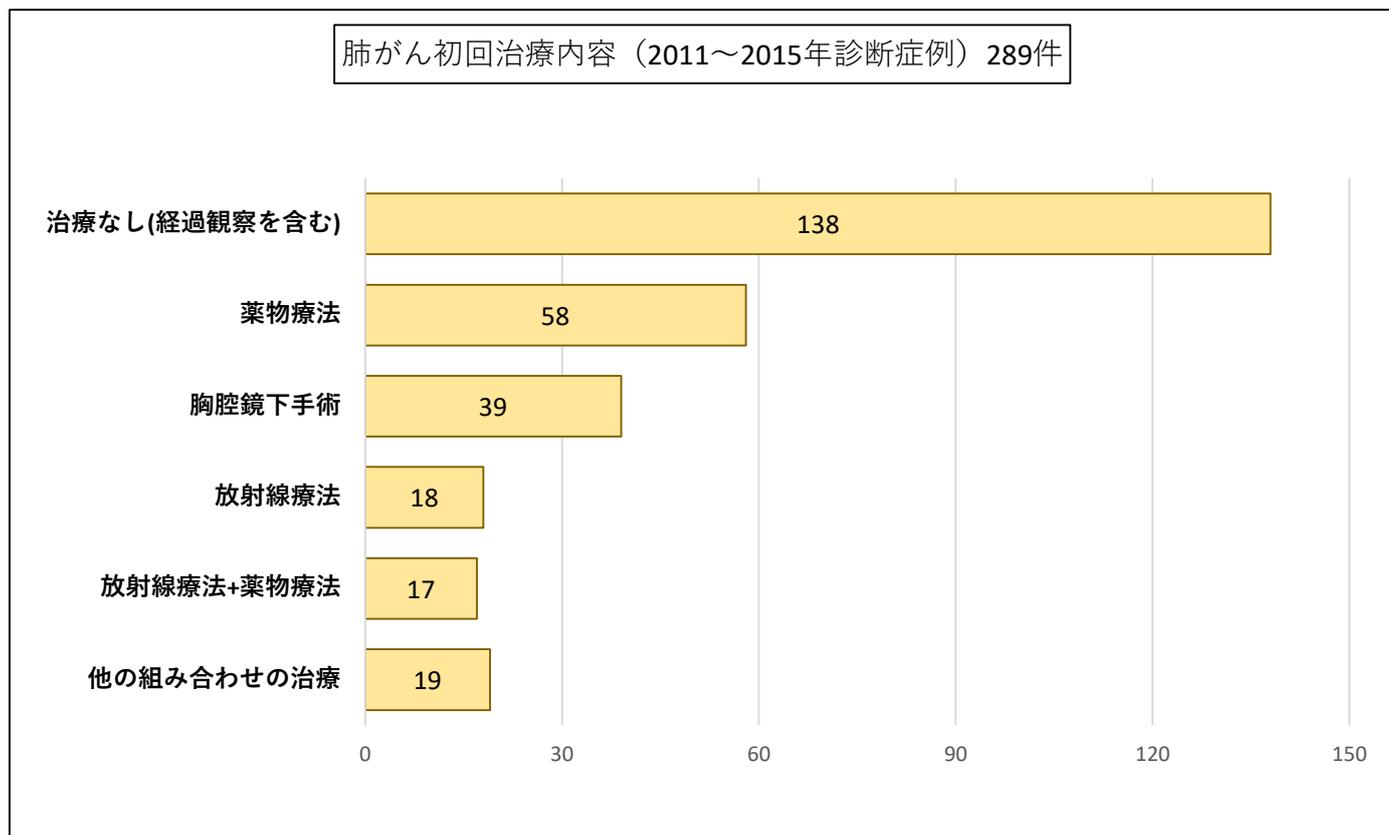
薬物療法：化学療法、内分泌療法のいずれかを含む



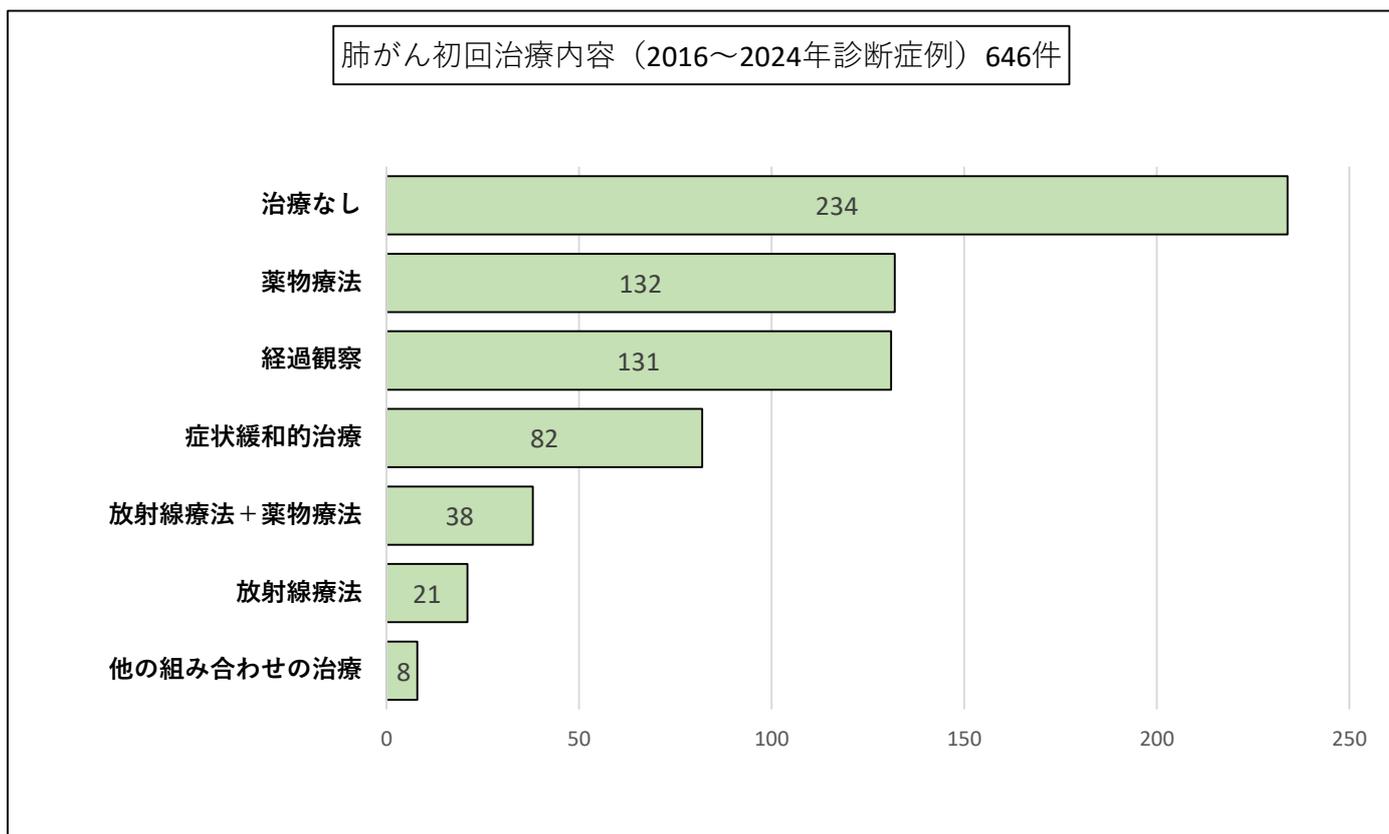
※ TACE（肝動脈化学塞栓療法） RFA：肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法



※ TACE（肝動脈化学塞栓療法） RFA：肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
 ※ 腹腔鏡下手術（ロボット手術含む） 薬物療法：化学療法、内分泌療法のいずれかを含む

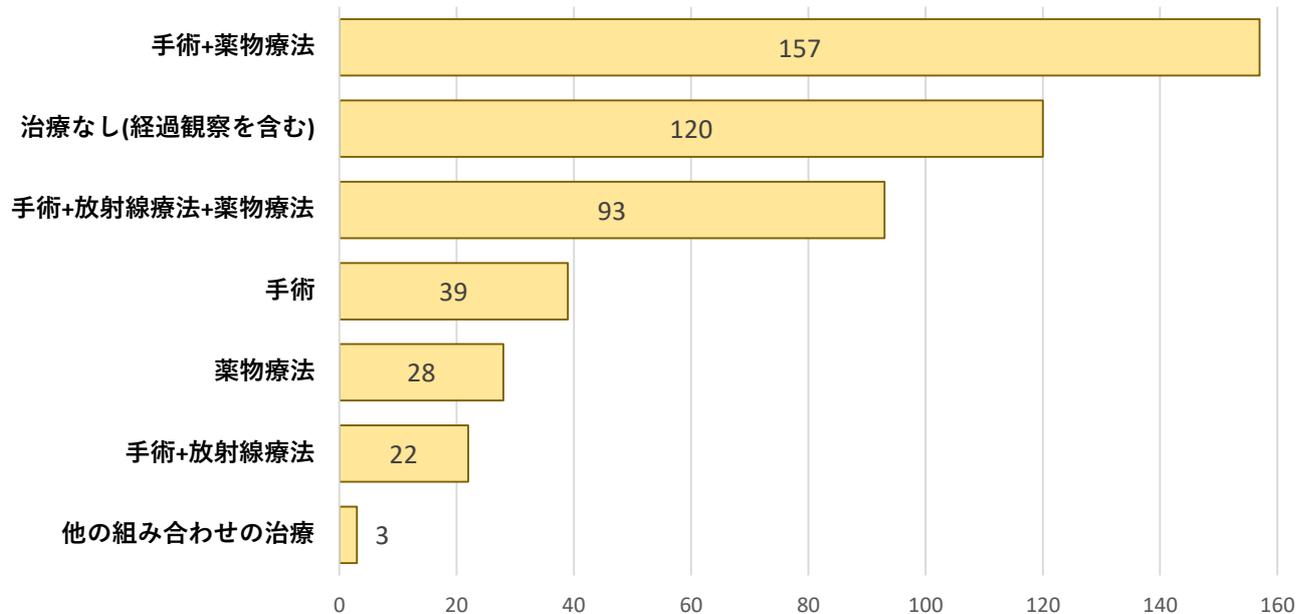


※ 薬物療法：化学療法、内分泌療法のいずれかを含む



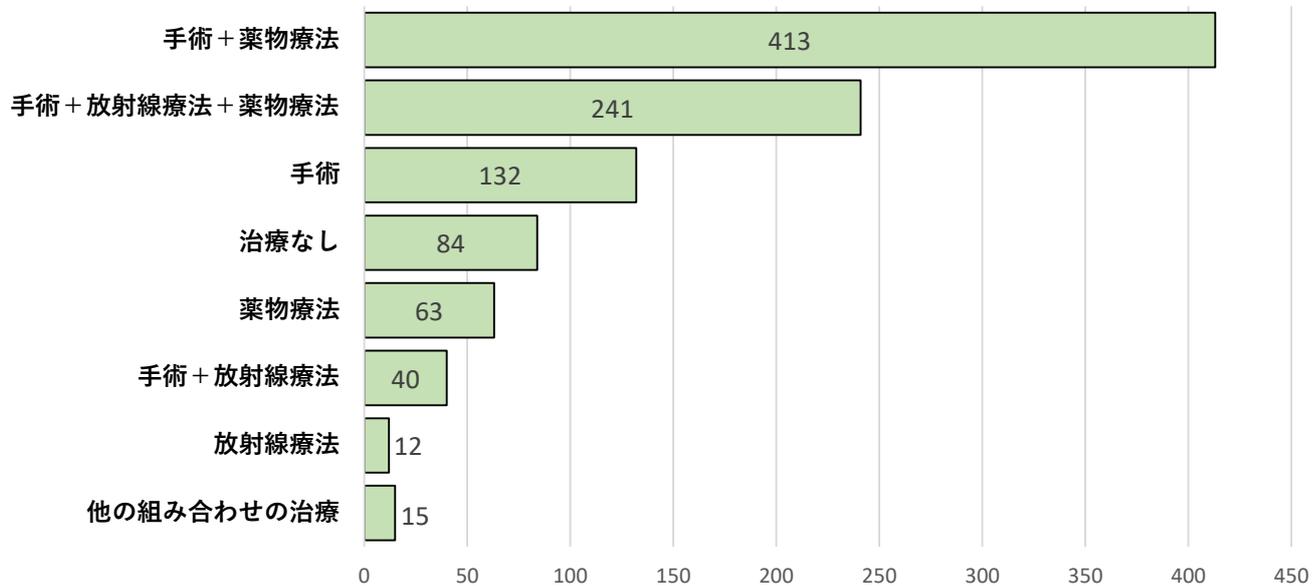
※ 薬物療法：化学療法、内分泌療法のいずれかを含む

乳がん初回治療内容（2011～2015年診断症例）462件



※ 薬物療法：化学療法、内分泌療法のいずれかを含む

乳がん初回治療内容（2016～2024年診断症例）1,000件



※ 薬物療法：化学療法、内分泌療法のいずれかを含む